



# 環境報告書2014

## ホシザキ電機株式会社

●本報告書に関するお問い合わせは、下記担当部署までお願いいたします。

発行：ホシザキ電機株式会社  
担当部署：総務部総務課環境係  
所在地：〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16  
TEL：0562-96-1130  
FAX：0562-97-5104  
URL：<http://www.hoshizaki.co.jp/>  
発行年月：2014年8月



ホシザキ電機株式会社

# ホシザキ電機 環境報告書 2014



## CONTENTS

- P01 編集方針
- P02 トップメッセージ
- P03 ホシザキグループの概要
- P05 ホシザキグループの経営理念
- P07 特集1 ホシザキの業務用冷蔵庫は、進化し続けます。
- P09 特集2 安全・安心で豊かな食環境づくりに貢献します。
- P11 特集3 ホシザキグリーン財団は、生物多様性を保全しています。
- P13 社会性報告
- P17 環境報告



### 編集方針

本報告書は、ホシザキ電機株式会社における環境・社会活動の年次報告書としてステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの推進を図ることを目的に発行しています。

2014年度版の報告書では、省エネや安全・安心な食環境の整備に尽力するホシザキグループの姿を特集で伝えています。また、社会性報告、環境報告では、各ステークホルダーに対する取り組みを紹介しています。

#### ●参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

#### ●対象範囲

ホシザキ電機株式会社と一部グループ会社の取り組みを対象としています。ただし、データにはグループ会社を含んでいません。

#### ●対象期間

2013年1月1日～2013年12月31日

#### ●発行

2014年8月



### トップメッセージ

## 社会に貢献できる 進化する企業 それがホシザキです

2014年は、2013年以降政府による景気対策の実行により、一層の景気回復が期待されています。一方で、電気の使用にともなうエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量増大が懸念されます。東日本大震災以降、停止している各原子力発電所は、現在においても再稼働の見込みは立たず、当面の電源確保は火力発電に頼らざるを得ない状況です。日本で事業を展開していくためには、その状況下でエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量を削減し、人類共通の課題である地球温暖化に対処していく必要があります。

ホシザキ電機は、地球温暖化対策に貢献し得る、環境に配慮した省エネ機器・省資源機器を開発するとともに、機器の製造プロセスや運送プロセスで発生するCO<sub>2</sub>の低減や環境リスクの高い化学物質の使用量削減、機器の廃棄時に発生する温室効果ガスの低減などの改善活動を継続して推進しています。その成果として、2013年度は、昨年度より生産量は増えましたが、製造プロセスから排出されるエネルギー起源CO<sub>2</sub>の

総排出量、輸送効率管理指数である輸送量トンキロは、2012年度に比べて改善しています。

さらに、ホシザキグループの販売会社には、機器に精通したサービスマンが多数在籍し、機器の省エネ性能を維持しており、グループ全体で地球温暖化対策に取り組んでいます。

自然環境保護や社会貢献の分野では、1990年に設立された「ホシザキグリーン財団」の応援や、2012年度に発足させた「ホシザキチャリティクラブ」による寄付活動などの実績があり、さまざまなパートナーの協力を得ながら社会・環境活動を推進しています。

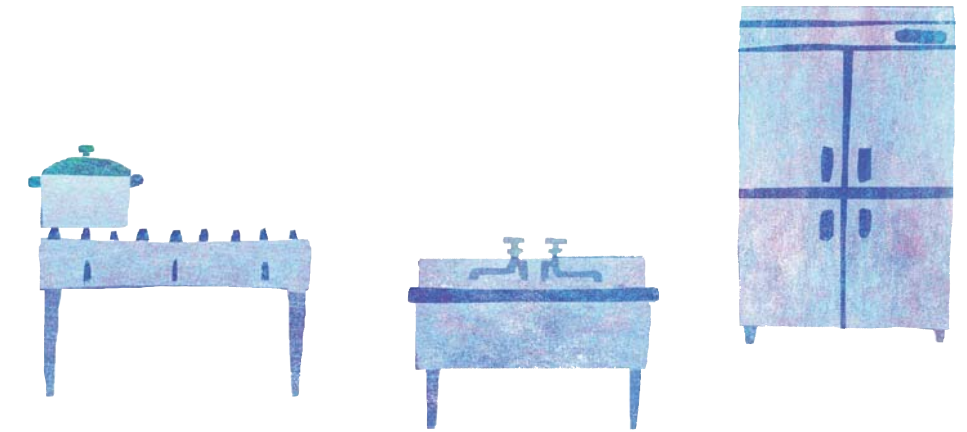
本年度の環境報告書では、これらの環境活動と社会性報告として、雇用にかかわる取り組みの一部についてもご紹介しています。

ステークホルダーの皆さまには、ぜひ本報告書をご一読いただき、当社の環境改善活動に対する忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

ホシザキ電機株式会社  
代表取締役会長兼社長

坂本精志

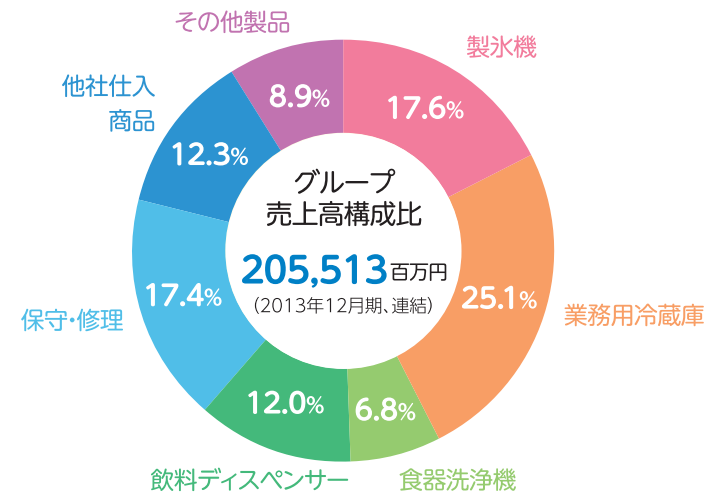
# フードサービス機器メーカーとして 飲食サービスをトータルでバックアップしています。



ホシザキグループは、フードサービス機器の研究開発、製造、販売および保守サービスを行っています。

主要製品は、製氷機、業務用冷蔵庫、食器洗浄機、飲料ディスペンサーをはじめとするフードサービス機器です。これらは国内トップシェアを獲得しており、特に全自動製氷機は世界シェアトップレベルを実現しています。

飲食店やスーパーマーケット、オフィス空間、農水産業に至る幅広い分野で、食品の保存や衛生管理に寄与しています。



## 会社概要

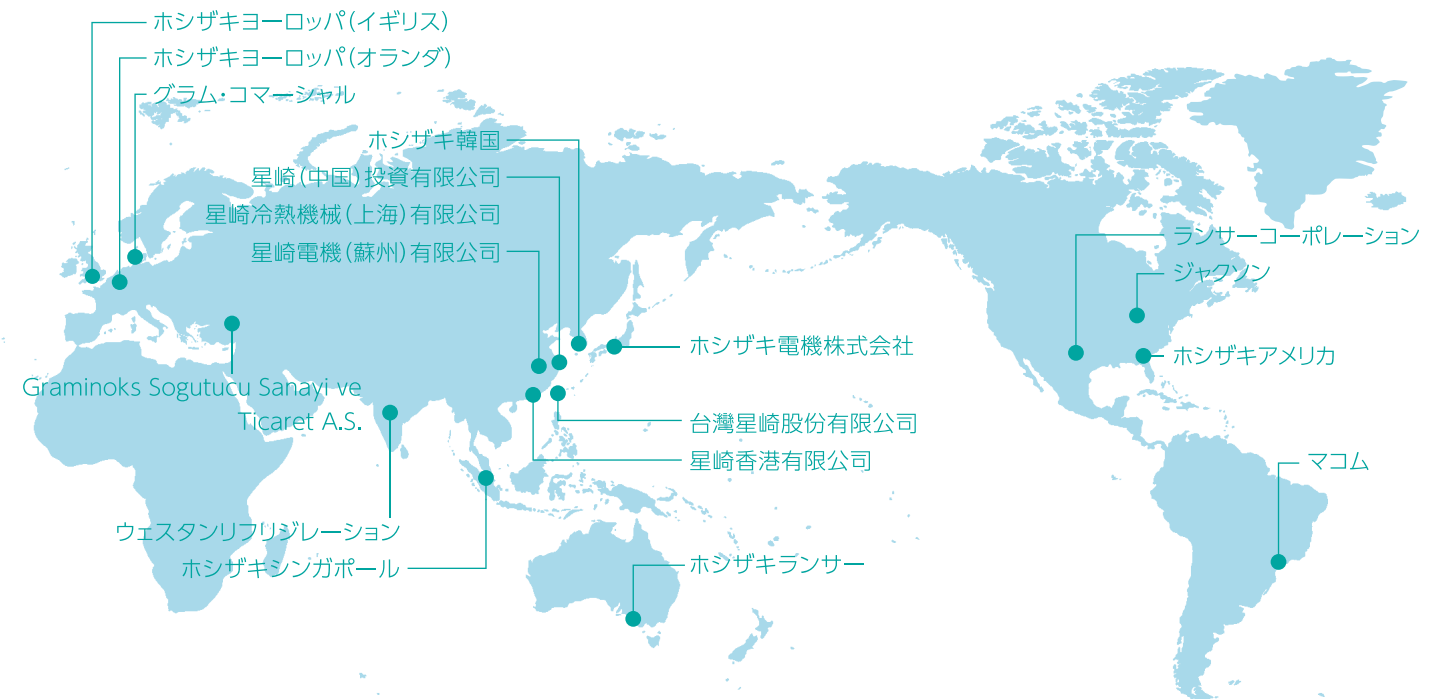
商号 ホシザキ電機株式会社  
 設立 1947年(昭和22年)2月5日  
 資本金 7,901百万円(2013年12月期)  
 売上高 205,513百万円(2013年12月期、連結)

代表者 代表取締役会長兼社長 坂本精志  
 本店所在地 〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16  
 従業員数 11,284名(2013年12月期、連結)

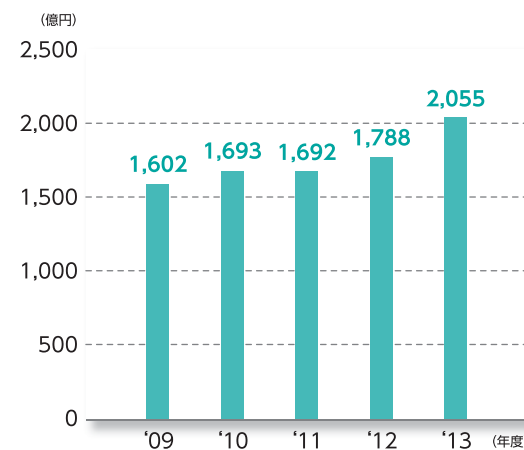
## グローバルネットワーク

北米、欧州、中国をはじめとするアジアを中心に、各国、各地域への製品供給とサービス網を持つホシザキのグローバルネットワーク。

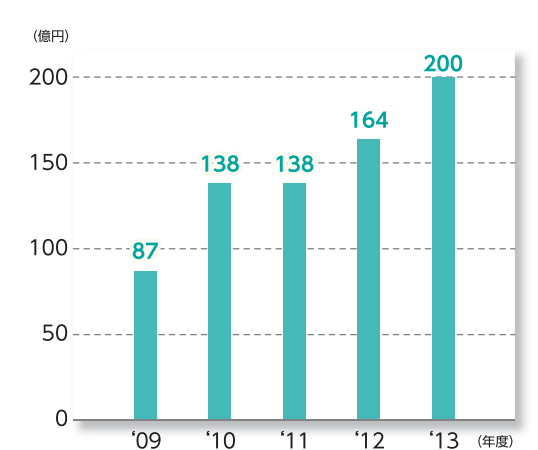
さらにアジアを中心とする新興国での製造・販売拠点を確立し、世界に活躍のフィールドを広げています。



## 売上高



## 営業利益



## ホシザキグループの経営理念

ホシザキ電機は、昭和22年(1947年)に創業を開始しました。「オリジナル製品を持たない企業に飛躍はない」をモットーに、モノづくりの「極限への挑戦」を継続することで、さまざまな製品をお客さまにお届けしてきました。

現在、ホシザキ電機をはじめとするホシザキグループは、以下の経営理念のもとに製販一体となり、変化・進化し続けて、さらなる飛躍を目指しています。

### 経営理念

#### ● 存在意義

私たちホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客さまのみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。

これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、  
より快適でより効率的な食環境へ向けての  
新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

#### ● 経営姿勢

- 遵法はもとより社会と社員から信頼される会社づくり
- 透明性のある経営 議論のできる経営の実践
- 事業活動と環境との調和 働きやすい職場環境の実現

「良い製品は良い環境から」

#### ● 行動規範

##### 「仲良く楽しく」

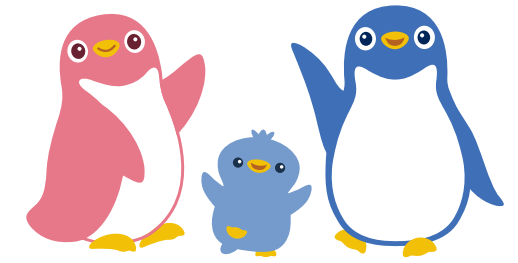
自らの責務を全うし仲良く楽しく仕事ができるよう実現しよう

##### 「極限への挑戦」

現状を打破し失敗を恐れず常に新しいものを創造していく姿勢を大切にしよう

##### 「顧客満足の創出」

常に顧客の立場にたって考えよう



## ● ホシザキグループの社会・環境活動

経営理念のもと、ホシザキグループの社会・環境活動基本方針を策定するとともに、ホシザキ電機では、環境方針を掲げ、社会・環境活動に取り組んでいます。

### 社会・環境活動基本方針

ホシザキグループは、パートナーの協力を得ながら、以下の方針に基づいた社会・環境活動を推進します。

1. 安全・安心かつ豊かな食環境の整備に尽力します。
2. 環境性・省エネ性に優れたモノづくりに挑戦し続けます。
3. 地域社会との対話・交流を推進します。
4. 法令遵守と適時適正な情報開示を推進します。
5. 野生動植物の保護繁殖に関する自然環境保護活動を応援します。

### ホシザキ電機環境方針(一部抜粋)

ホシザキ電機株式会社は、当社経営理念である「良い製品は良い環境から」のもと、緑豊かな工場環境の整備につとめるとともに、地球レベルでの環境保全が人類共通の最優先課題の一つであることを認識し、環境と調和した持続的発展が可能な事業活動を目指します。

▶ P20参照

### 環境・品質方針カードの携帯

ISO9001および14001の認証事業場であるホシザキ電機の本社地区および島根地区に在籍する社員には、環境方針や品質方針が記された「環境・品質方針カード」が配付されます。このカードを常に携帯することで、品質マネジメントシステム(QMS)や環境マネジメントシステム(EMS)を通じて到達しようとする目的を意識付けするのに役立っています。



環境・品質方針カード

特集  
1

# ホシザキの業務用冷蔵庫は、進化し続けます。

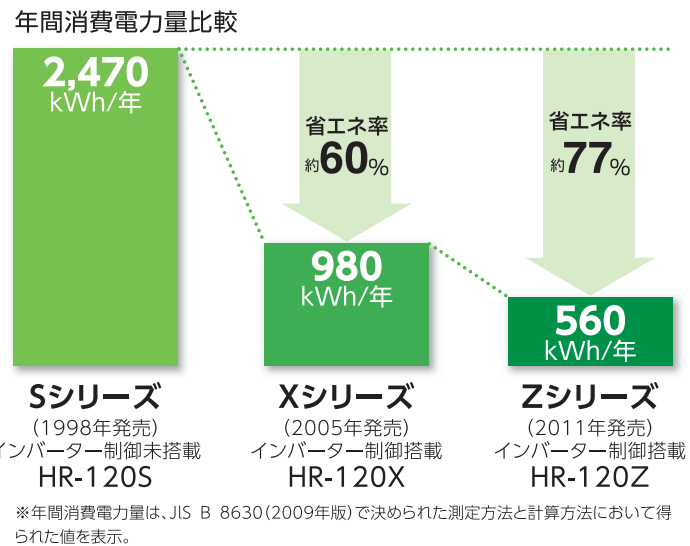


ホシザキは、人々に食の安全・安心を提供し続けるために、40年以上にわたり業務用冷蔵庫をお届けしてきました。24時間365日、休みなく働き続ける冷蔵庫。だからこそ、ホシザキは、冷却性能や耐久性はもちろん、使いやすさや省エネに徹底的にこだわります。



## SからX、そしてZへ

「Sシリーズ」から「Zシリーズ」へ  
約77%の省エネ率を達成しています。



## 1998

### ● 基本性能にこだわった「Sシリーズ」

「Sシリーズ」は、業務用冷蔵庫の基本性能にこだわり、十分な冷却性能とマイコン制御により、確実な温度管理を実現。

また、本体強度アップ、新ドアヒンジ(ちょうつがい)により、頻繁な食材の出し入れに対応できる耐久性の確保と扉の半開き防止機能など使い勝手の向上も図りました。



平成17年度 省エネ大賞 (省エネルギーセンター会長賞、HR-Xシリーズ)  
平成19年度 省エネ大賞 (資源エネルギー庁長官賞、HF-EXシリーズ)

## 2005

### ● 省エネ大賞受賞! 「Xシリーズ」

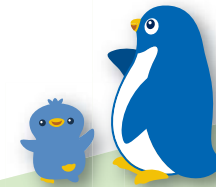
「Xシリーズ」は、業務用冷蔵庫で初となるインバーター制御を搭載。使用実態にあわせ冷却能力をコントロールする制御方式、高温多湿の厨房環境下でもインバーター電子基板の使用を可能とする構造の開発により、業務用冷蔵庫に求められる基本性能を満ち、かつ大幅な省エネを達成しました。



### 「Zシリーズ」では、さらなる省エネを目指す

「Xシリーズ」発売以降、競合他社からもインバーター圧縮機搭載機が発売され、また、ユーザーの省エネ意識の高まりもあり、業務用冷蔵庫に求められる基本性能の一つとして省エネであることが重要視されるようになってきました。

そこで、「Zシリーズ」では、さらなる省エネを目指し、高効率部品の採用、およびインバーター圧縮機、庫内ファンモーター、凝縮器ファンモーターの回転数を最適に制御するプログラムを開発、さらにリブ付きドアによる新断熱構造、デフロスト(霜取り)制御の最適化など、細部にわたる見直しを実施しました。また、多岐にわたるユーザーのニーズに応えるべく、豊富なバリエーションをそろえ、かつトップランナー基準(目標年度2016年)をクリアする省エネ性能を達成しています。



## 2011

### ● トップランナー基準をクリア! 「Zシリーズ」



Z SERIES



インバーター制御 業務用冷蔵庫 Zシリーズ

#### トップランナー基準とは?

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)の「機械器具に係る措置」に規定されており、2013年に省エネ法が改正、施行され、業務用冷蔵庫も対象となりました。これにより、冷蔵庫、冷凍庫などの各区分において、目標年度以降におけるエネルギー消費効率(年間消費電力量)の出荷台数加重平均値は、トップランナー目標値を上回らないよう製造事業者などに義務が課せられます。

#### 開発担当者の声

### エコロジーにもエコノミーにも貢献!

業務用冷蔵庫の省エネを実現することにより、お客さまにランニングコストの低減、排熱量の削減による厨房環境の改善や空調費の低減などのメリットを提供しています。また、豊富なバリエーションをそろえ、さまざまなニーズに応えることで、省エネ製品を広く普及させることができます。そして、これこそが、私たちが地球温暖化防止に貢献できる方法だと考えています。

今後も業務用冷蔵庫の更なる省エネを目指し、エコロジーにもエコノミーにも貢献できる製品を開発していきます。



特集  
2

# 安全・安心で豊かな食環境づくりに貢献します。



食品の安全性が重視され、健康志向がますます高まる時代。ホシザキは、衛生管理や調理の面から、安全・安心はもちろんのこと、笑顔で楽しめる、元気になる食環境づくりをサポートしています。その事例の一部をご紹介します。

case 01  
医療・福祉現場で活躍するホシザキ

病院の入院患者や福祉施設の入居者の方々にとって、おいしく安全な食事をとるといことは、健康維持や心の安らぎにとって重要なことです。

それをサポートするのが、ホシザキ電機の電解水生成装置やスチームコンベクションオープン、再加熱カートなどの便利なフードサービス機器です。多種多様な製品ラインナップがあり、安全・安心で豊かな食環境づくりに貢献しています。



### 食材や厨房内を衛生面でサポート

私たちが食物から摂取している主要な栄養素には、炭水化物やたんぱく質、ビタミン類などがあり、これらの栄養素を体内で効率よく活用するために活躍しているのが「酵素」です。一般的に酵素は熱に弱いといわれており、生野菜のサラダやフルーツなどで摂取することが望まれますので、食材の殺菌には、配慮が必要です。

生鮮食品や調理器具の殺菌を強力にサポートするのが、電解水生成装置からつくられる強酸性の電解水です。電解水の原料は食塩であるため、残留性が低く、衛生面や汚染予防に効果を発揮します。

きれいで  
あんしん!



システム電解水生成装置



スチームコンベクションオープン



再加熱カート

### おいしく、安全に、簡単に

さまざまな加熱料理を一台で行うことのできるスチームコンベクションオープン。ホシザキ電機のスチームコンベクションオープンは小型であるため、狭い厨房でも活躍します。また、加熱調理後の食材を急速冷却するブラストチラーと、チルド保存から再加熱を行いそのまま配膳できる再加熱カートの組み合わせは、大量調理の合理化・省力化に貢献します。大量の食品や食材をさまざまな状態で保管することができるプレハブ庫も、調理場で活躍しています。

case 02  
ジビエ料理の普及をサポート



近年、シカやイノシシなどの野生鳥獣による農林業被害が全国で深刻化しています。その対策の一つとして、捕獲された野生鳥獣をジビエ料理へ活用する取り組みが進められています。ホシザキグループは、ジビエ食材の加工から調理まで、多種多様な製品で衛生管理や調理をサポートし、自然環境保護に貢献しています。

### ジビエ料理の実演

ホシザキグループには、国内に40カ所を超えるテストキッチンがあり、シェフ立ち会いのもとで料理実演会が開催され、スチームコンベクションオープンによる真空低温調理について紹介しています。

参加者の皆さまには、料理しているところを間近に見学していただくことで、より具体的な調理のイメージをしていただけます。



料理の実演



### 真空低温調理の特長

100度以下の低温で調理することで、熱で壊れやすいビタミンなどの栄養素の損失を抑えるとともに、お肉の収縮が少なく、柔らかく仕上がる特長があります。

下ごしらえを済ませた食材を調味料とともに真空包装して調理しますので、手間を省くことができます。



真空包装した食材

### 徹底した衛生管理

ジビエ料理では、野生の鳥獣を食材とするため、市販の食材よりも衛生面での配慮が必要です。

特に捕獲した鳥獣の解体を行う一次加工処理施設では、電解水による洗浄と殺菌が効果を発揮します。



電解水生成装置



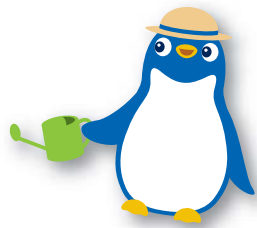
### ジビエ料理とは

ジビエとは主にフランス料理の用語で、狩猟で捕獲された野生鳥獣の食肉を意味します。ヨーロッパでは高貴な食文化として発展してきました。

日本では、現在、野生鳥獣による農林業被害額が年間200億円を超えると報告されており、一部の行政は、加工処理施設や民間企業と連携してメニューづくりを考案するなど、積極的にジビエ料理の普及を進めています。捕獲数の多いシカやイノシシを食材としたジビエ料理は、高たんぱくで低脂肪のヘルシーな料理として注目されています。



# ホシザキグリーン財団は、 生物多様性を保全しています。



ホシザキ電機は、自然環境保護活動の一環としてホシザキグリーン財団の活動を応援しています。財団は、人と自然の調和した自然環境の保全に寄与することを目的として掲げ、野生動植物の保護繁殖などに取り組んでいます。

## 自然あふれる活動拠点

ホシザキグリーン財団の活動拠点は、島根県松江市と出雲市にまたがる宍道湖の西岸にあります。1990年から事業活動を開始し、県内の野生動植物の自然調査研究や情報発信、「宍道湖グリーンパーク」や「島根県立宍道湖自然館ゴビウス」を運営する中で、普及啓発の活動を行っています。



2013年度は、主にこんな活動をしました!

### 観察会



「グリーンパーク」では、年間12回(毎月1回)の観察会を開催。「尺の内公園」の観察会は、2013年度は4回開催しました。

### 研究報告会



絶滅危惧種などの生息状況調査や地域の生物相の研究などで得られた成果を発表する報告会を開催し、財団研究員5名が発表しました。

### 企画展



2013年度の夏は、「食虫植物や植物の動き」を、冬は「出雲市の砂浜海岸(菌の長浜)の自然」をテーマに「グリーンパーク」で開催しました。

### イベント



宍道湖・中海がラムサール条約湿地として登録された記念日がある11月に、オリジナルカレンダーづくりのイベントを開催しました。

## ホシザキグリーン財団の主な活動

ホシザキグリーン財団は、人と自然の調和した自然環境の保全に寄与することを目的として掲げ、野生動植物の保護繁殖に関する事業およびこれらに資するための関連事業を実施しています。

### ふるさと尺の内公園事業

多自然型の公園として、さらなる魅力と機能向上のための整備を計画しています。2013年度は、そのためのワークショップも開催しました。



### 宍道湖グリーンパーク事業

野鳥観察舎には、職員が常駐し、解説などの対応をしています。2013年度の来園者数は、ペンギンミュージアム効果もあり、43,688人となりました。



### 野生生物研究所事業

研究所では、財団施設の環境整備の計画も担っています。2013年度はビオトープ池の機能向上のための改良整備を実施しました。



### 調査事業

鳥類、昆虫類、植物の研究員をはじめ専門のスタッフが、県内の希少種をはじめとした野生動植物の生息状況などの調査研究を行っています。



### 普及啓発事業

自然観察会のほか、自然と親しむきっかけづくりのイベントや宍道湖学習講座の開催、企画展や季節毎の展示更新などに取り組んでいます。



### 情報収集発信事業

調査研究や普及啓発を目的とした情報の収集と発信を行っています。2013年度には研究報告書は第17号や特別号9~11号を発行しました。



### 担当者の声

#### 調査研究に励み、財団の活動を発展させます!

財団の各事業は、調査研究で得た知見を根幹としてそれぞれつながっています。調査研究で得た知見は、企画展などの展示にオリジナリティを加え、解説に厚みを持たすことができるなど、普及啓発にも役立ちます。また、施設の環境整備にもその知見が参考とされ、効果を計る役割も担います。財団の根幹である蓄積された知見の、その根と幹が一層太くなり、さらに企画展やワークショップなどの開催という枝葉を広げられるように、財団の活動を展開させていきたいと思っております。



ホシザキグリーン財団  
森 茂晃



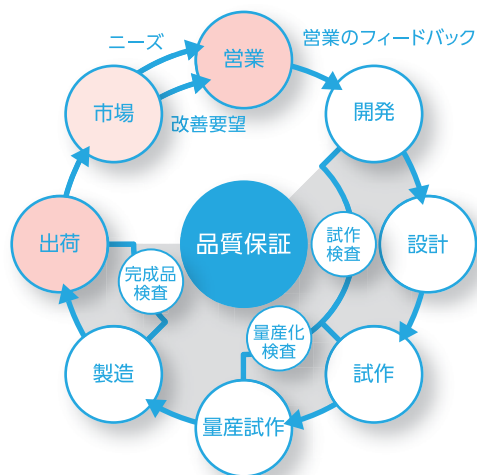
## 社会性報告

# お客さまとの関わり

### 研究開発・品質保証体制

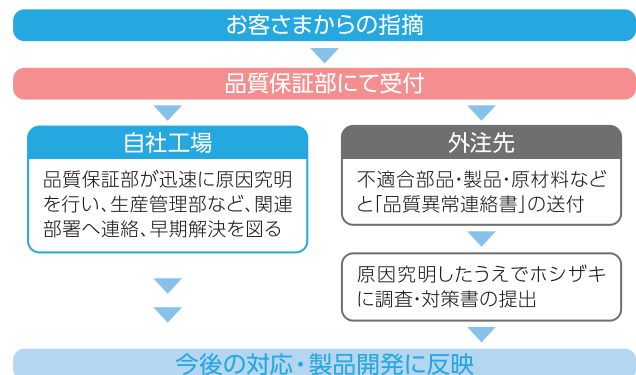
ホシザキ電機は、日本国内外のグループ会社と協力して、製品開発システムを構築しています。

開発設計フェーズでは、厳しい品質基準を設定しており、過酷な条件下での試験に合格した技術や部品のみを製品に採用します。また、自社生産、外注生産に関わらず、生産部品の品質検査を実施しています。品質レベルが基準を満たさない生産委託先については、工場監査を通じた改善指導を行うこともあります。



### 品質保証体制

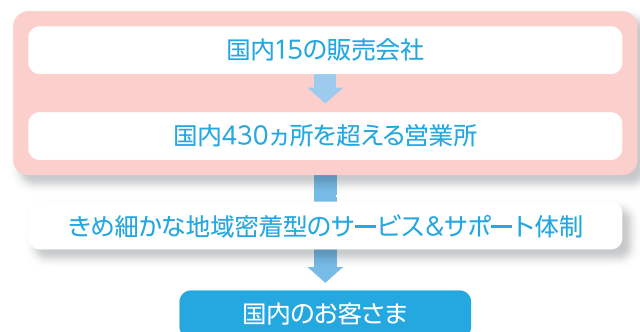
お客さまからの指摘に対しては、品質保証部門が中心となり、開発設計部門と連携して次の製品開発・改良に反映します。



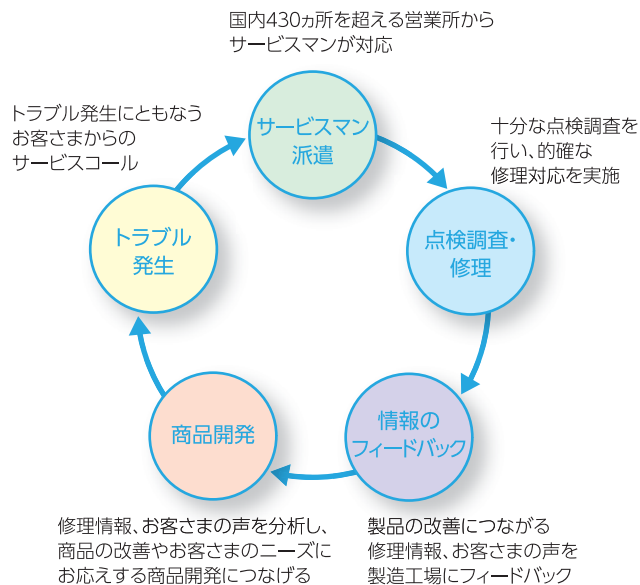
URL <http://www.hoshizaki.co.jp/business/tech/>

### サービス&サポート体制

ホシザキグループには、製品の販売と保守サービスを展開する販売会社が国内に15社あり、430カ所を超える営業所を通じて地域密着型のきめ細かなサービスを展開しています。



また、アフターサービスの拡充に重点を置いており、専門技術を有するセールスエンジニアを多数育成しています。保守契約に加入していただいたお客さまのもとには定期的にセールスエンジニアが訪問し、点検・修理を行うほか、省エネルギーのアドバイスなども行っています。



URL [http://www.hoshizaki.co.jp/business/service\\_support/](http://www.hoshizaki.co.jp/business/service_support/)



# 社員との関わり

### 働きやすい職場環境の整備

ES\*1向上活動は、国内グループ会社全体で取り組んでいる重要な活動で、建設的な意見の採用や課題解決を通じて、お客さまの期待を超える製品やサービスの提供を実現することを目標としています。

この活動を推進するために、ES向上委員会を設置するとともに、国内グループ社員\*2を対象とした無記名での調査を毎年実施しています。その結果に基づいて実行計画を作成して、有給休暇の取得率向上や快適な職場環境づくりな

どのさまざまな施策を展開しています。

これらの活動の結果、ホシザキ電機では、有給休暇の取得率が目標65%に対して67%を達成しました。2014年度は、目標を70%に引き上げて活動しています。

\*1 ESとは、社員満足度(Employee Satisfaction)の略称です。  
\*2 社員には、嘱託、準社員、契約社員、パートタイマー、アルバイトを含みます。

### 雇用の多様性の推進

工場の緑地を維持管理していくうえで重要なのは、その業務に関わる人材の確保と管理方法の向上です。自然や樹木を大事にする精神は創業者・坂本薫俊から脈々と引き継がれており、その管理に携わるスタッフのやる気にもつながっています。

ホシザキ電機では、障がい者雇用を推進する取り組みのひとつとして、直接雇用契約を締結した知的障がい者に緑地管理業務の一翼を担ってもらっています。主な作業内容は、グラウンドやテニスコートを含む緑地全般の草取りや草刈り、芝刈りなどです。

さらに障がい者の雇用環境を向上していくためにも、緑地の維持管理業務に留まらず、個人の能力に応じた作業の提案やトレーニングメニューの拡充につとめていきます。



花壇の管理

### ビジネスフィールドで活躍するグループ社員

「食環境」が主なビジネスフィールドであるホシザキグループでは、女性の活躍推進が不可欠です。女性社員が長く安心して働ける職場環境の整備は、グループ全体の課題であるとともに、社内全体の課題であるといえます。

ホシザキ北関東では、女性活躍推進活動の一環として、埼玉県ウーマノミクス課に働きかけ、地元企業との交流会を企画、実施しました。交流会での活動事例の情報交換や意見交換を通じて、自社の課題を

再認識することができ、働く女性を支援する仕組み作りに活用していく予定です。

このような女性活躍推進活動は、グループ内で共有され、「女性の活躍できる職域の開拓」や「社員の意識改革」などに活かされています。



ホシザキ北関東(株) 出口 智美





## 地域社会との関わり



### チャリティクラブを通じたホシザキの社会貢献活動

ホシザキグループは、社会貢献活動の一環として、2012年2月にホシザキチャリティクラブを発足させました。この活動は、入会者の給与の中から100円未満の端数を寄付してもらい、その資金を通じて社会貢献活動を行う団体や個人

の支援を目的としたものです。

2013年度は、2012年4月～12月の間に積み立てた給与端数約300万円を、さまざまな団体や個人に寄付を行いました。

### アミノクロウサギ・トラスト・キャンペーン

「アミノクロウサギ・トラスト・キャンペーン」は、(公財)日本ナショナル・トラスト協会による自然環境保護活動です。国により特別天然記念物に指定されているアミノクロウサギの生息地である鹿児島県奄美大島の土地を買い取ることで、ありのままの自然を保護していこうという取り組みです。ホシザキチャリティクラブの寄付金で買い取られた土地は、「ホシザキの森」と名付けられ、同協会の管理のもと、大切に保護されていきます。



### ドナルド・マクドナルド・ハウス

「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は、子どもの治療に付き添う家族のための滞在施設で、(公財)ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが運営しています。ホシザキチャリティクラブでは、東日本大震災の被害による負担が大きい宮城県仙台市にある「せんだいハウス」の運営をサポートするために、寄付を行いました。



せんだいハウス

### メイク・ア・ウィッシュ

「メイク・ア・ウィッシュ」は、難病と闘う子どもたちの夢をかなえる支援をしている(一財)メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンのボランティア活動です。ホシザキチャリティクラブからの寄付金は、ディズニーランドに行きたい子どもたちの支援に活用されました。



ご家族からいただいた手紙

### 工場敷地内の福利厚生施設

本社工場と島根本社工場の敷地内には、野球ができる芝生敷きのグラウンドがあり、野球部などのクラブ活動や、地域住民も参加できる労働組合主催の納涼祭の会場に利用されています。

また、本社工場の敷地内には、グラウンドのほかに夜間照明を備えたテニスコートがあります。

これらの福利厚生施設は、場合により近隣地域の方々が利用することが可能であり、大規模震災などの有事の際には、緊急避難所としての役割を果たします。



グラウンド(本社工場)



テニスコート(本社工場)

### 地域社会に密着した社会貢献活動

ホシザキ電機では、さまざまな社会貢献活動を実施しています。2013年度は、本社工場の近隣地域の要請に応じて2012年度に設置費用を寄付しましたLED街路灯22灯が稼働し、工場周辺の防犯性の向上に貢献しました。LED街路灯を設置することで、地域のCO<sub>2</sub>排出抑制にも寄与しています。

また、ホシザキ電機労働組合は、地域の環境美化につながる日本労働組合総連合会主催の列島クリーンキャンペーンへの参加、特定養護老人ホームの清掃・軽作業ボランティア活動、社会福祉法人中部盲導犬協会への寄付などを行いました。



LED街路灯



列島クリーンキャンペーン(島根県木次健康の森)



尾張東地協クリーンキャンペーン(前後駅～三崎水辺公園)

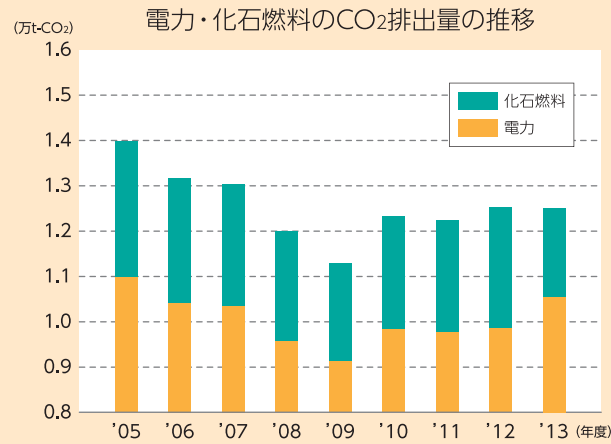




## 2013年度の総括

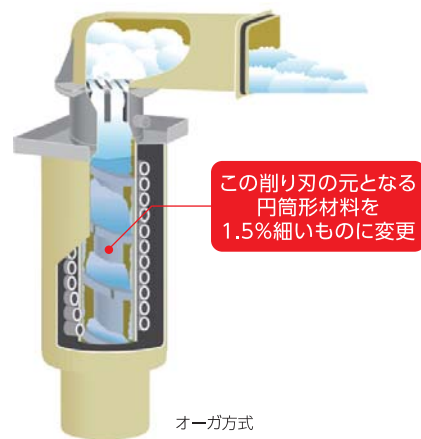
ホシザキ電機では、東日本大震災以降の国内電力事情を勘案し、2012年度に引き続き、可能な限り電力会社のピーク電力使用量削減要請に応えつつ、使用量ベースでの省エネルギー活動に取り組みました。

2013年度は、2012年度に比べて工場の稼働率が高かったにもかかわらず、CO<sub>2</sub>換算後のエネルギー使用量としては2012年度をわずかに下回ることができました。引き続き、製造部門、間接部門を通して生産性向上を軸としたエネルギー使用量の削減につとめていきます。



### 材料変更による省エネ

チップ状やフレーク状の氷を作る製氷機では、オーガ方式と呼ばれる製氷方法を採用しています。冷却した筒の内側に薄氷を作り、ドリル状削り刃で氷を掻き出す仕組みになっています。このドリル状削り刃の製造は、円筒形の材料を複合旋盤で削ることで作られますが、この材料の径を約1.5%細いものに変更することで、複合旋盤の稼働時間短縮により、年間1,000kWhの電力を削減しました。また、材料径が細くなることにより、切削屑の削減にも寄与しています。



### 省エネ機器への更新

老朽化によって効率が低下した機器を省エネルギータイプの機器に更新しています。2013年度は、空調機器の更新や照明機器のLED化のほか、インバーター制御のコンプレッサの導入、貫流ボイラの更新などを行いました。

今後は、ピーク電力の抑制につながる設備投資も検討してまいります。

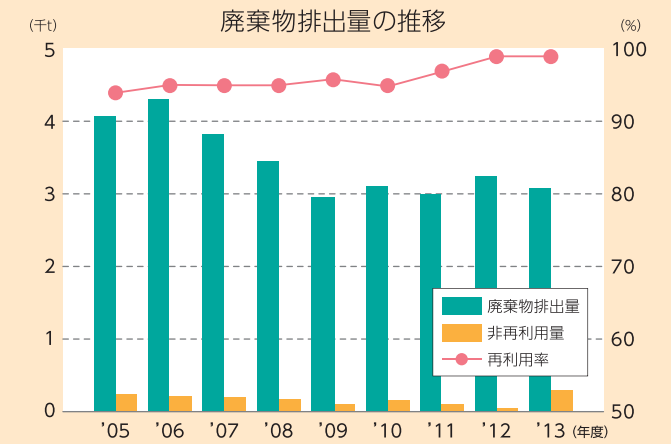


## 2013年度の総括

廃棄物の排出量削減の取り組みは、3RのうちReduce(発生抑制)に主眼をおいて活動しています。

2013年度の廃棄物排出量は、3,142トンで2012年度比97.1%、再利用率は99.3%となりました。2012年度は、大規模な生産設備の変更にもなう設備などの廃棄が総排出量を押し上げましたが、2013年度は生産台数の増加にもなう作業屑が総排出量を押し上げました。

金属材料を多く取り扱うホシザキ電機にとって、材料の歩留まりの向上が主たる廃棄物削減の手段であり、引き続き取り組みを継続してまいります。

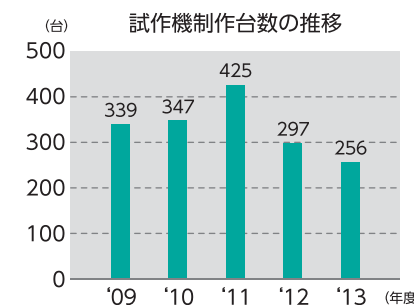


### 物流改善による廃製品の発生抑制

ホシザキ電機では、製品全てに性能検査や外観検査を実施しています。出荷された後に傷がついてしまった製品は品質確保のため工場に戻され、再出荷されることはありません。工場に戻ってきた製品については、傷がついた部位やその種類、傷の発生プロセスを調査し、製品の運送委託先と連携を取りながら再発防止につとめています。

### 試作機の制作台数の削減

製品開発では、設計検証の過程で試作機を用いた実施検証が行われます。ホシザキ電機中央研究所では、検証精度を維持しつつ、試作機の制作台数の削減を検討・改善し、その結果、試作機の年間制作台数は2009年度339台から2013年度には256台にまで削減されています。



### プレハブ廃パネルの再利用

急な仕様変更や製造段階での傷などにより発生した廃パネルをリユースしています。プレハブパネルや玄米保冷庫の発泡作業組み立て工程において、従来は面材のたわみの発生を防止するために、他社からブロック材を購入していました。現在では、廃パネルの面材を剥がしウレタン部分を切断加工し、ブロック材の代替として再利用することで廃棄物の削減を図っています。



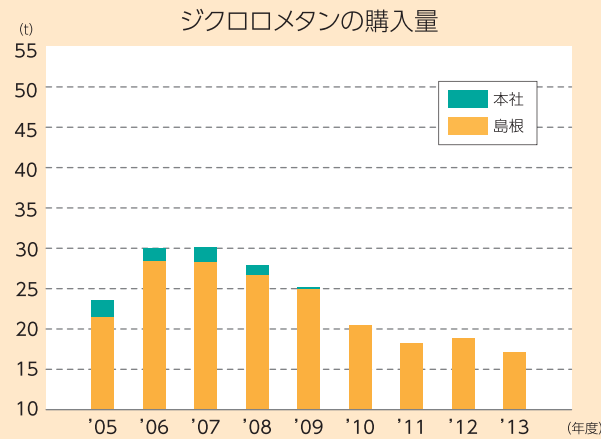


## 化学物質リスク低減

### 2013年度の総括

ホシザキ電機で使用している化学物質のうち、環境リスクに配慮しなければならない化学物質は、ジクロロメタンとフロンです。これらの化学物質の使用削減やRoHS指令対応に継続して取り組んでいます。

ジクロロメタンは2010年に本社工場での使用が全廃され、島根工場でも生産ライン毎に徐々に脱ジクロロメタン化に着手しています。フロンについては、主にウレタン断熱材の発泡剤をシクロペンタンに切り替えることで使用量を削減しています。



### ショーケースの断熱材脱フロン化

本社工場では、2012年度に縦形冷蔵庫のウレタン断熱材用発泡剤をフロンからシクロペンタンに変更しました。同様に、2013年度はリーチインショーケース(ガラス扉のついたショーケース)のウレタン断熱材にシクロペンタンを使用することで、断熱材の脱フロン化を実施しました。

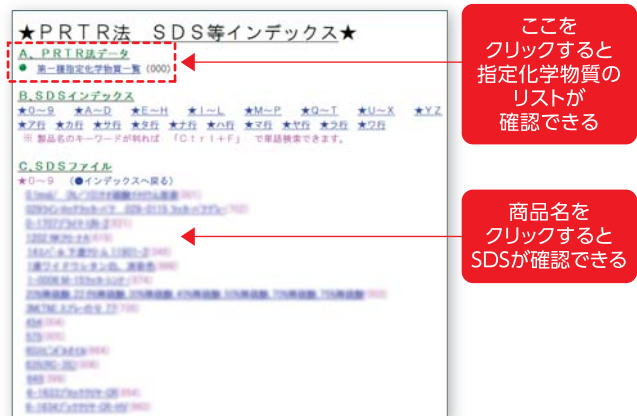
ウレタン断熱材の脱フロン化技術は、シクロペンタン化ではありません。2013年度の取り組みでは、シクロペンタン以外の化学物質によるウレタン断熱材の脱フロン化の研究が始まっており、全ての製品で断熱材を脱フロン化する技術が確立しつつあります。ホシザキ電機では、環境負荷の低い製品の提供に向けて引き続き取り組んでいきます。



### SDS簡易検索システムの構築

人体や環境に対して一定のリスクを有する化学物質を一定量以上含んでいる商品には、安全データシート(略称SDS)と呼ばれる化学物質のリスク情報が網羅されたものがあります。

本社工場では、製品の開発や製造工程で使用する化学物質について提供を受けたSDSを簡単に検索できるようにするため、社内のイントラネットに登録して閲覧できる仕組みを構築しています。その登録数は約900件にのぼり、環境教育や安全教育で活用されています。



SDS簡易検索システム



## 環境マネジメント

### ホシザキ電機環境方針

ホシザキ電機株式会社は、当社経営理念である「良い製品は良い環境から」のもと、緑豊かな工場環境の整備につとめるとともに、地球レベルでの環境保全が人類共通の最優先課題の一つであることを認識し、環境と調和した持続的発展が可能な事業活動を目指します。

1 当社は、製氷機、業務用冷蔵庫、食器洗浄機、生ビールディスペンサーをはじめとするフードサービス機器の開発、製造を行うメーカーとして、その事業活動にかかわる環境への影響を認識するとともに、これの継続的な改善に取り組む体制を整備し、汚染の予防につとめます。

2 当社の環境側面に適用可能な法的要求事項ならびに当社が同意するその他の要求事項の順守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理レベルの向上につとめます。

- 3 当社の事業活動にともなう環境影響のうち、特に次の事項を重点課題として取り組みます。
- エネルギー原単位の低減
  - 省資源化の推進、廃棄物発生抑制
  - 輸送に係る環境負荷の低減
  - 化学物質の使用削減による環境負荷の低減
  - 環境に配慮した製品の開発・設計の推進
  - 自然環境の保護

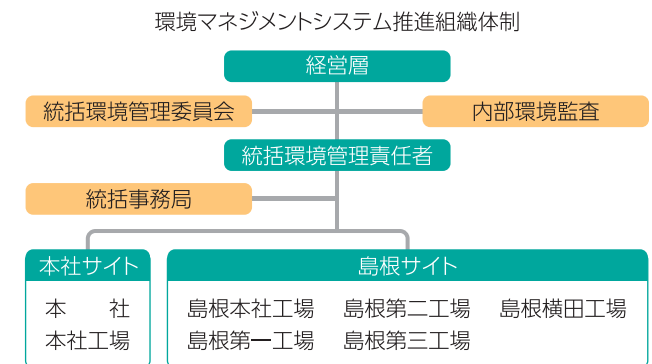
4 この方針遂行のため、技術的、経済的に可能な範囲での環境目的、目標を設定、推進し、定期的にこれを見直します。

この方針は、文書化し、実行し、維持するとともに、教育、広報活動を通じ、当社社員のみならず、当社組織のもとで当社の業務に従事する全ての人員に周知させます。また、社外のあらゆる人々からの要求に対して公開します。

2013年1月31日 常務取締役 本郷正己

### 推進体制

ホシザキ電機では、下図の体制で環境マネジメントシステムを運用しています。経営層が定めた環境方針のもと、工場の立地に合わせて二つのサイトで活動を推進しており、各サイトの環境管理責任者が各々の活動を統率しています。



### 法令順守

ホシザキグループのコンプライアンス基本方針には、法令やルールを厳格に順守することが明文化されており、ホシザキ電機では、この基本方針に基づいた行動を実践する取り組みをしています。

ISO14001規格要求事項に則り、適用可能な法的およびその他の要求事項を一覧表にして管理しています。また、ウェブで法改正情報などを知らせてくれる環境法管理ツールを採用し、遅延なく法改正に対応できる仕組みをつくっています。

### グリーン調達推進

ホシザキ電機では、環境にやさしい製品づくりの一環として、グリーン調達基準書を定めて、環境に配慮した部品や消耗品の調達につとめています。グリーン調達の主管部門である生産管理部門は、各部門による環境に配慮した消耗品などの調達をうながすため、定期的にグリーン調達基準に適合した商品の案内を配信しています。



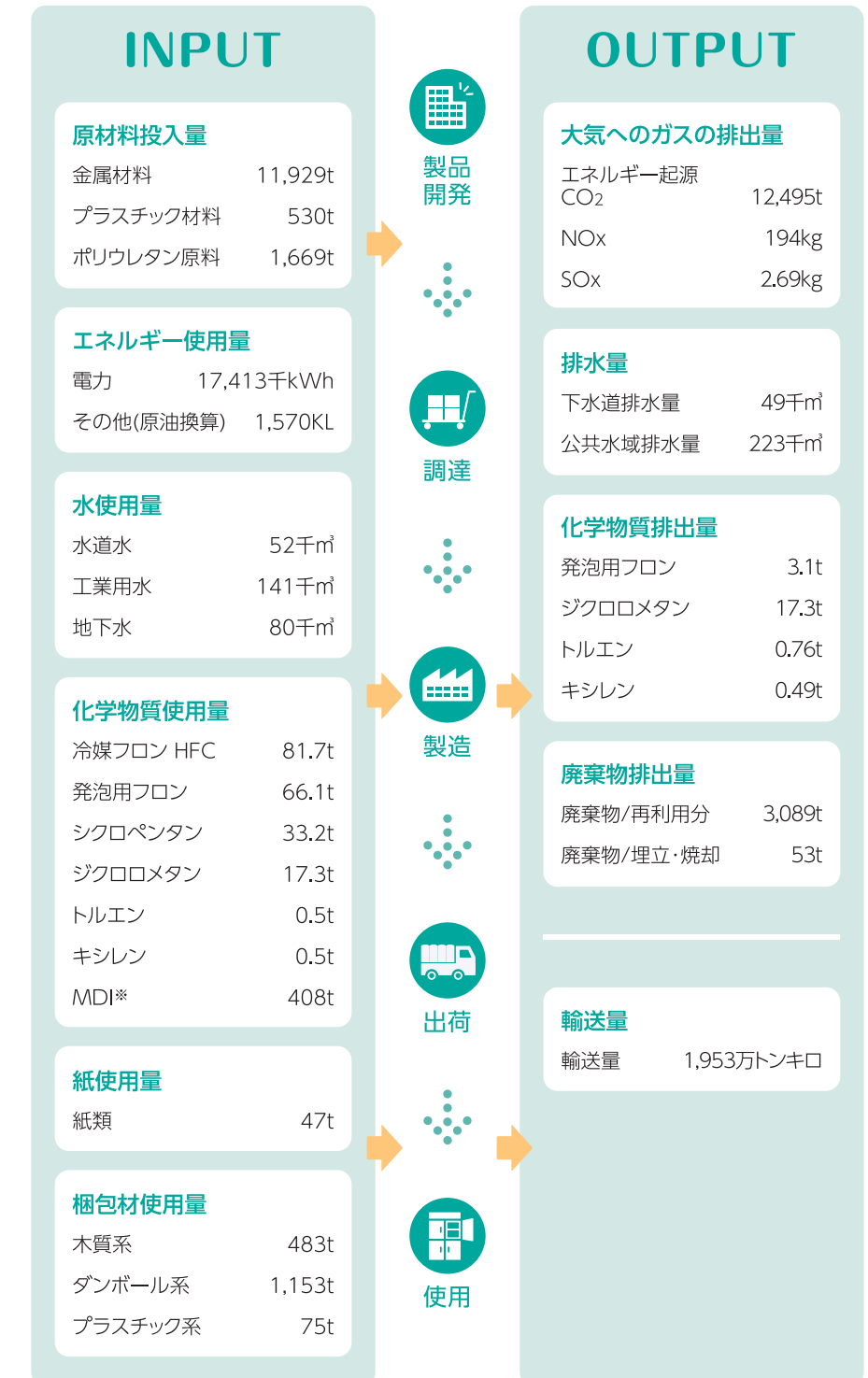
## 環境目標と実績

◎…達成 ▲…一部未達成 ×…未達成

	2013年度目標	実績	コメント	2014年度目標
省エネルギー	付加価値高当たりのエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(車両の燃料を除く) 2012年度比1%削減	▲	サイト全体としては目標を達成しましたが、一部の部門では、プロジェクト業務に起因して部門目標が未達成となりました。	付加価値高当たりのエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(車両の燃料を除く) 2012年度比1%削減
廃棄物の発生源抑制	作業屑(金属屑・プラスチック材料)歩留り率 2008年度比2.0~4.5%削減	▲	見込んでいた材料統合が設計上の理由で実施できず、一部の部門で目標が未達成となりました。	作業屑(金属屑・プラスチック材料)歩留り率 各部門毎に目標値を設定
省資源	製品類・仕掛品 排出工程毎に目標値を設定	▲	各部門で目標値とそれを達成するための施策を掲げて改善に取り組みました。しかし、運送事故や新製品リリース関係の製品類が増加し、目標を達成できなかった項目がありました。	製品類・仕掛品 排出工程毎に目標値を設定
輸送	輸送量トンキロ(原単位あたり) 2009年度比5.5%向上	◎	積載効率の向上、モーダルシフトの促進に取り組み、目標を達成しました。	輸送量トンキロ(原単位あたり) 2009年度比6%向上
化学物質	ジクロロメタン 島根サイト:設備導入による使用廃止、代替材への変更	◎	製氷機・飲料ラインの発泡設備を更新して脱ジクロロメタン化を図りました。	ジクロロメタン 島根サイト:設備導入による使用廃止、代替材への変更
	フロン ノンフロン発泡への変更、新発泡剤の研究 低GWP冷媒による冷媒回路の研究	▲	リーチインショーケースの発泡剤をシクロペンタンに切り替えました。しかし、同時期に計画していた配膳車用の切り替えは延期となりました。	フロン 新発泡剤による生産技術の確立 低GWP冷媒による冷媒回路の研究
製品開発	省エネ製品、環境配慮型製品の開発を推進	◎	省エネ法トップランナー対応を含めて概ね目標を達成しました。	省エネ製品、環境配慮型製品の開発を促進
自然環境の保護	ホシザキグリーン財団の行う保護活動への協力と参加 島根サイト:構内緑地保全基準の運用開始	◎	ホシザキグリーン財団の行う保護活動に協力しました。 島根サイトでは、構内緑地保全基準の運用を開始しました。	ホシザキグリーン財団の行う保護活動への協力と参加



## マテリアルフロー



\*正式名称ジフェニルメタンジイソシアネート。ポリウレタン原料として使用される。毒性は低いですが、PRTR法の第一種指定化学物質に指定されており、MDIの蒸気やミストが出る場所では曝露防止措置が必要となる。